

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/09/01 ～2017/09/30)

ヨエンスーについてちょうど1ヶ月が経ちました。約9ヶ月間、東フィンランド大学で言語学や教育学についてしっかりと学んでいきたいと思います。

1. 勉学の状況

今期は6つの授業を取ります。本当はもう少し取るうと思っていたのですが、人数制限や登録期間の関係であまり取れませんでした。授業によって登録期間が違うので、早めに登録しましょう。あとから直接教授にメールをすればなんとかなる様ですが、こちらの大学の授業は、曜日が固定されておらず、第1回は○日の○時～・第2回は△日の△時～のような形になります。そのため授業が被ってしまうこともありましたが、友達に後で授業内容を聞いたりなどすることで乗り切っています。

ここでは9月中に受けた授業のうち2つの授業について紹介したいと思います。

◎Finnish Educational System and Organisation

この授業はフィンランドの教育についての授業でした。計3回の授業で1回が約4時間あったので最初は不安でしたが、ちょうど半分の時間でコーヒーブレイクをくれたので、最後まで集中して聞くことができました。教授はとてもゆっくり英語を話してくれたので、理解しやすかったです。(催眠効果もありましたが。)この授業での新しい発見は、フィンランドでは教師と親のつながりが良い意味で強いということと、新カリキュラムが日本では考えられないようなものだったということです。前者について、フィンランドでは親と教師がネット上で気軽にやり取りができるplatformがあるそうです。教授に小学生のお子様がいるそうで、実際にそのサイトを見せていただきました。生徒が悪さをした時も教師側から連絡が行くこともあるそうです。また、”How do we evaluate our teachers? We never speak of this. It is irrelevant in our country. Instead, we discuss: How can we help them?”というチラシを見せてもらい、日本とは教師の位置づけが全く違うことを痛感しました。後者については、新カリキュラムで”phenomenon-based learning”が取り入れられることなどが述べられていました。”phenomenon-based learning”とは、テーマ別学習のことで、教科の垣根を超えてあるテーマについて自分たちで学んで行くというものです。これは必ずしも教室内で行われるものではなく、例えば森の中を4、5時間探索することもあるそうです。「将来自分で生きて行くために、生徒は自分自身の学びに責任を持たなければならない」と教授が言っていて、これがフィンランド教育において”自主性”が強調されている理由なのだなと思いました。

◎History of English

この授業は名前の通り、英語の歴史についての授業です。今現在の英語がどのような経緯を辿ってそのようになったのかについて学んでいます。千葉大の授業内で英語史については多少学んでいたのですが、この授業では英語史についてだけで12回も授業をするのでかなり細かく説明をしており、固有名詞がなかなか覚えられません。この授業を取った理由としては、英語の成り立ちや語源を知ること、教師になった時に生徒が覚えやすくなるような説明ができるで

はないかと考えたからです。今は主にOld Englishについて学んでおり、5世紀半ばから12世紀に使われていた言語を音読する機会などがあり、とても面白いです。この授業はテストがあるそうなので、固有名詞の暗記を頑張ります... (笑)

2. 生活の状況

◎ヨensuuについて

フィンランドは森と湖の国と聞いていましたが、ヨensuuは田舎の街で、少し中心から外れると森しかありません(笑)自分は自然が好きなので、よくランニングをしながら探索をしています。最近だとハリネズミのような動物に遭遇しました。

現在の気温は最高気温が10度を下回ることが多くなってきており、服装は冬の格好をしています。最近木の葉っぱが紅葉してきているのですが、完全に気温と合っていません。

施設については、スーパーの数がとても多く、住んでいるところから1km圏内に4つスーパーがあり、スーパーの目の前にスーパーがありました。また、お金の節約のためにsecond-hand shopによく行きます。とりあえずsecond-hand shopで探し、目当ての物がなかったら他の店に行くようにしています。

◎遊びについて

今月は、イベントに参加したり、新しくできた友達と遊んだり、地元のサッカーチームの練習に参加したりと、とても充実していました。まず、私が行ったイベントのうちの1つを紹介します。Get to Know Each Other Partyという名前で、留学生やフィンランド人の学生が参加でき、新しい友達を作るいい機会でしたので参加しました。クラブで行われ、みんなかなりテンションが高ったため、知らない人ともいつも以上に話すことができ、たくさん友達を作ることができました。こういう雰囲気のパティーは初めてで多少戸惑いもありましたが、楽しむことができ友達もできたのでOKです。

そこで知り合ったフィンランド人の友達に誘われて、その人のサマーハウスにお邪魔しました。サマーハウスとは夏に利用する別荘のことで、多くのフィンランド人が持っているそうです。フィンランド人1人・ベルギー人1人・日本人2人で行きました。彼のサマーハウスはおしゃれなログハウスで、目の前に湖があり、サウナまであるという完璧な場所でした。そこでは、ベリーを摘みそれを使ってパイを作ったり、念願のサウナに入った後に湖に飛び込むことなどもしました。その時気温が10度くらいでただただ寒かったのですが、またサウナに戻ると最高に気持ちいいです。とてもいい思い出になりました。

大学には部活がなく、サッカーをする場所を探していたのですが、留学生も参加できるサッカーのグループがあり、参加させてもらいました。そこで知り合った方が地元チームのコーチで、そのチームに誘っていただいたので、こっちで知り合った日本人の友達と一緒にサッカーで国際交流しています。サッカーウェアとシューズを持ってきた甲斐がありました。

◎住居について

accommodationについてはいくつか問題がありました。まず、住む場所が決まらない問題です。私がaccommodationを申し込んだあと宿泊施設の会社からメールが来ており、「この夏の間はofferを送ります」と書いてありました。8月になってもメールが来ないため流石に怖くな

り（出発が8/31だったので..）連絡を取ったところ、申し込んだ人がかなり多く、あふれてしまう可能性があるとのことでした。そして結局部屋の空きが出て住む所が決まったのが出発の約1週間前でした。しかも元々申し込んでいた場所とは違く、金額も少し高めの家具なしの部屋でした。次の問題は、私が到着した曜日が土日で宿泊施設の会社が営業しておらず、鍵を入手できなかったことです。本来であれば留学生一人一人についてくれるチューターさんがあらかじめ鍵を受け取っておいてくれるのですが、先ほどのバタバタで連絡するのを忘れてしまい、それもありませんでした。結局2日間ホテルに泊まり、約150€使ってしまいました。本当にもったいなかったです。これからは早め早めに行動していきたいと思います。最後は問題というわけでもないのですが、部屋が3つなので3人で生活するのかなと思ったのですが、なぜかルームメイトが私以外に4人おり、その4人が1つの部屋で住んでいました。おそらく他3人の住む場所が決まるまで泊めてあげていたのでしょう。（今は、私とインド人とフィンランド人の3人です。）その4人はインド人とパキスタン人で、始め彼らの英語が全く聞き取れずなかなかその輪に入ることができませんでした。日が経つにつれて彼らの訛りにも慣れて会話できるようになりました。（まだ聞き取れないことは多々あります。）

しかし、悪いことだけでもありませんでした。私が今住んでいるところから歩いて3分ほどの所にスーパーがあったり、ルームメイトはみんなとても優しく、インド料理を振舞ってくれたりもしました。最終的にこのaccommodationに決まってよかったなと今は思います。



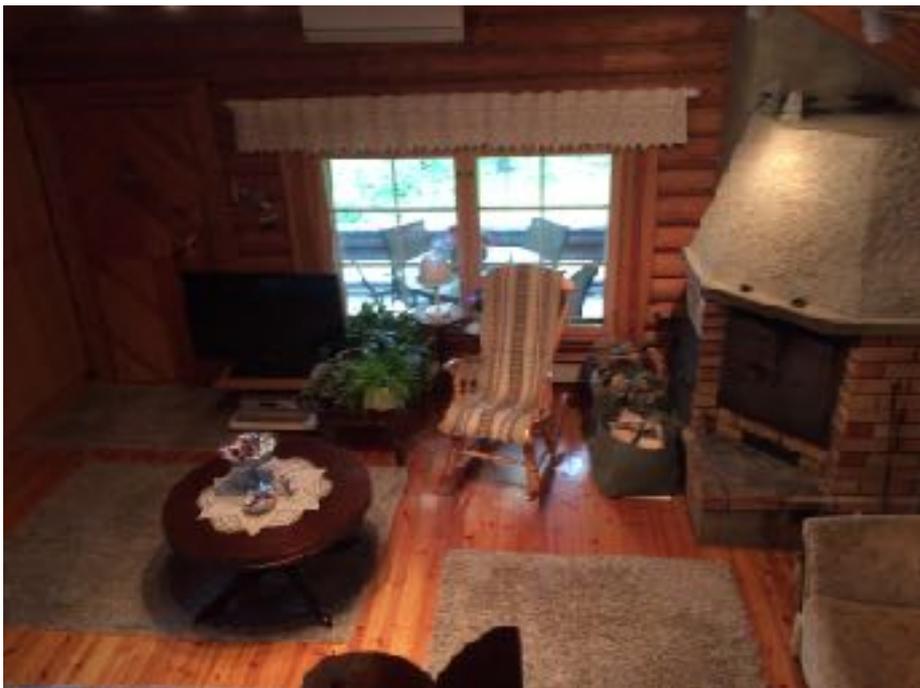
↑東フィンランド大学

校舎の中もかなりおしゃれです！

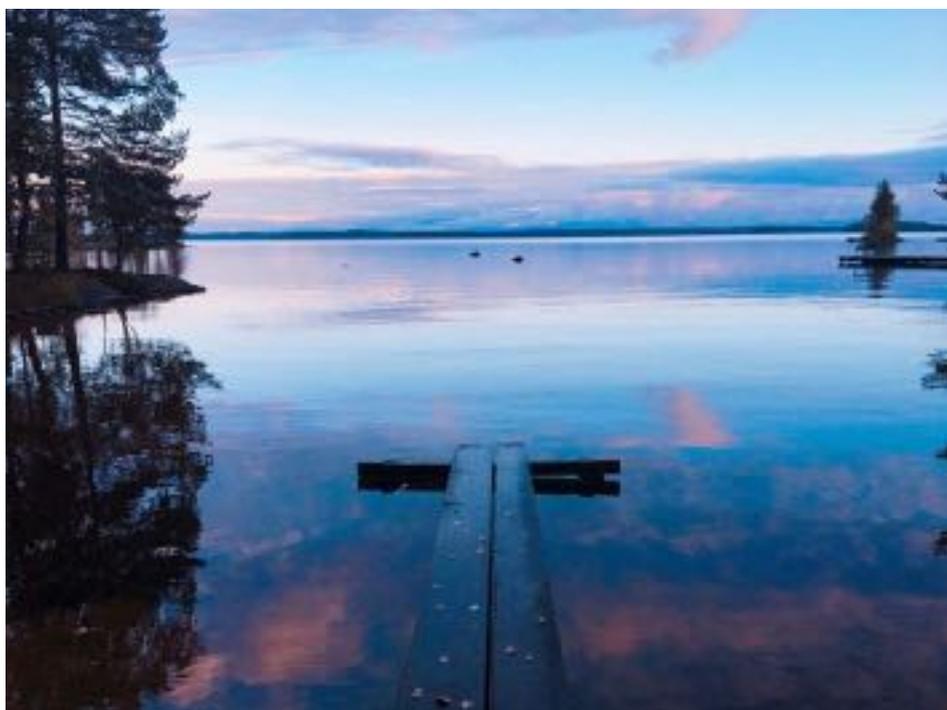


↑日本人の誕生日パーティー

私は握っただけなのですが、とても美味しかったです！外国人にはツナマヨが人気だった気がします。



↑友人のサマーハウス↓
何から何まで本当におしゃれで、
湖も最高に綺麗でした！



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/01 ～2017/10/31)

ヨエンスーに来て2ヶ月が経ちました。とても寒いです。10月なのにととう雪が降ってきました。これからの寒さが想像もできません。

1. 勉学の状況

今月は留学してから初めてのテストがあつたりもしましたが、授業数が少ないため自分の時間がかかなりあり、自分がしたい勉強をすることができています。今回は、言語学系の授業を紹介したいと思います。

◎Morphology and Syntax

これは、語がどのように構成されているのかを研究する形態論と、文がどのように構成されているかを研究する統語論についてのレクチャー式の授業でした。この分野に関しては、千葉大学で授業をとっており、ある程度の背景知識を持っていたので教授が話していることはスムーズに理解できました。とはいっても、扱う言語が英語だけでなく他の言語も扱うので、内容そのものの理解が難しいことはありましたが。そしてつい先日、筆記のテストを受けてきました。形態論から3問、統語論から3問の論述式テストです。日本語での説明ならまだしも、英語で説明となると専門用語を覚えなくてはならずとても苦労しましたが、香港人の友達と一緒にテスト勉強しなんとか乗り切りました。その時に香港の教育事情を聞くことができ、ここでも多くの学びがありました(笑) テストの手応えは悪くはなかったので、合格しているのを祈るばかりです。

◎English Grammar 1

この授業は名前の通り、英文法についての授業です。私は大学受験期から英文法が好きだったのであまり必要のない授業かなとも思いましたが、将来英語の教師を目指しているため、英文法を英語でどのように教えているのか見たいと考え、この授業を取りました。改めて英文法の授業を受けてみると、大学で行われている授業ですので少々レベルが高く、どちらかというと言語学の授業に近いものを感じました。この授業を受けて驚いたのは、基本5文型にあたるものの説明で、日本とはグループ分けの仕方が違ったという事です。まず、S(Subject)主語、V(Verb)動詞、O(Object)目的語、C(Complement)補語の他に、A(Adverbial)副詞句が基本要素の中に含まれていました。そのためグループが7つありました。SVAとSVOAという日本にない文型があります。

e.g.) "He lives in London"(SVA)
 "They're sending us to Disneyland."(SVOA)

最初の例文は、日本の英語教育では第1文型で扱われています。しかしこちらでは、その文に絶対に必要な副詞句(ここでは"in London")は基本要素として捉えていました。つまり、"in London"や"to Disneyland"がなければ意味が通じない文になり、その場合は新しく文型を増やしているという事です。これは、英文法の形そのものを重視しているのかコミュニケーションにおける英文法を重視しているかの違いなのかなと感じました。実際に"He lives"で終わる文をコ

コミュニケーション上で使うことはなく、意味の通じる文で考えると文型を増やして教える方がより実践的なのではないかと感じました。後で調べたのですが、5文型で教えている国は日本くらいしかなく、英文法研究者の間では第7文型の方が主流で、他にも25文型論や64文型論があるそうです（笑）また後々調べていきたいと思います。

2. 生活の状況

◎ヨエンスーについて

一番最初にも書きましたが、とにかく寒いです。31日には-10度を経験しました。フィンランド人の友達にはこの寒さにも慣れるよと言われましたが、この先-20度~-30度になることを考えると心配しかありません。今では雪も積もってきており、道路はかなりスリッピーです。寒くても自転車で通学しようと思っていたところ、雪が降ってきたのでそろそろバスで通うべきか迷っていた時に自転車のチェーンが壊れてしまったので、心置きなくバスの定期を買うことができました。ちなみに値段は50ユーロほどで、6往復ほどすれば元が取れるのでお得です。



14時くらいに撮った写真です。
見てわかる通り太陽の位置がとても低いです。

図書館の前にありました。
海外の雪だるまは3段みたいです。



◎誕生日について

私は誕生日が10月にあったのですが、サプライズをそれぞれ違うグループに2回やってもらいました。1つ目は日本人の友達で集まって日本食パーティーをしているときに、バースデーケーキを買ってきてくれました。このパーティーは私の誕生日よりも前の日にやっていたので、完全に予想していなくともびっくりしました。（私へのケーキだと気づくのに少し時間がかかりました笑）また、誕生日当日には、前回の月間報告書で話したサマーハウスのメンバーがケーキと料理を作って家まで届けにきてくれました。前日に集まって作ってくれたそうです。こんなに祝ってもらえるなんて、自分は幸せ者だなと感じました。



← 日本食パーティー
東フィンランド大学に在籍している日本人全員です。

サマーハウスのメンバーです。
料理もチョコケーキも美味しかったです。

→



◎旅行について

今月はフィンランドのロヴァニエミに旅行に行ってきました。オーロラが見れたりサンタ村がある場所です。3泊4日でフィンランドで知り合った日本人の友達6人でいきました。一番安かったのがバスで行ったのですが、片道で10時間以上と、日本からフィンランドの渡航時間と同じくらいでした。バスには無料のwifiが通っていたり充電プラグがあったりしたので退屈せず

に過ごせました。初日と最終日は移動でほぼ終わり、2日目にサンタ村とオーロラツアー、3日目はショッピングなどをしました。サンタ村ではサンタさんとおしゃべりをしました。かなり日本語が上手で千葉県のことも知っていました。オーロラについては、その日天気がよかったにも関わらず、夜になると雲がかかり見るできませんでした。流れ星が見えたのでよしとします。また今度チャレンジしたいと思います。



ここに泊まりました。
← コテージで必要なもの（お皿とかドライヤーとかwifiとか...）がほぼ全てあり快適でした。

トナカイ肉ケバブです。
思った以上にクセはなく、
美味しかったです。

→



◎フットサルについて

前回も書きましたが、誘ってもらったチームの毎週月曜日の練習に参加しています。またそこでもチームに誘ってもらい、今度はフィンランドのフットサルリーグで2部のチームに誘ってもらいました。2軍を作るそうで、本格的にフットサルをすることができそうです。つい先日

練習試合があり、友達も見にきてくれました。久々の緊張感の中でのフットサルだったのでとても楽しむことができました。勉強とフットサルを両立できるよう頑張りたいと思います。



↑
練習試合の様子です。
ちなみに試合は無失点で快勝しました。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/01 ～2017/11/30)

1. 勉学の状況

こちらに来て初めて成績が一つ出ました。前回の月間報告書で述べた”Morphology and Syntax”です。結果は4/5点で合格していました！とりあえず単位が取れて良かったです。

11月はかなり授業数が少なく、週に2つの授業しかありませんでした。そのため自分の英語力を上げるための時間を多く取ることができたり、自分の興味のある分野の本を読んだり、自由な時間が多かったです。実際に、授業とは関係なしに附属の小学校の授業観察をしたりもしました。...と油断していたら9月に3回だけあった”Finnish Educational Systems and Organizations”という授業の課題を11月中に提出しなければならず、それをすっかり忘れていて結局提出したのは11/30でした。今回は授業観察で気づいたこと、課題で触れた内容について書きたいと思います。

◎授業観察

フィンランドの授業形態などについてはあらかじめ日本で予習しておいたのですが、実際に観察してみると驚きの連続でした。小学6年生の英語の授業を観察しました。クラスサイズは約10人ほどで、机はグループワークができるような配置がされていました。まず始めに生徒の英語力に衝撃を受けました。スピーキングとリスニングに関しては、日本の中学生よりも遙かにできると思います。先生はAll Englishで授業を進め、生徒も英語でコミュニケーションを取っていました。(それもきちんとセンテンスで答えることができてました...)教科書を使ったリスニング問題については、流れる英文のスピードが日本での高校レベルに匹敵するものにも関わらず、8-9割の生徒が正解していました。フィンランド語は日本語と同じく、英語との言語間の距離が遠い(つまり英語とは全然似ていない言語で、習得するのに時間がかかるということ)はずなのにこれだけ差が出ているのは、様々な要因が重なった結果だと思います。観察を繰り返して、その要因を丁寧に見ていきたいと思います。また、授業の終わりに不規則動詞のテストを行っていました。授業後に先生が”中学校に行く前に一番覚えなくてはいけない重要なものは不規則動詞である”とおっしゃっており、やはり英語の基盤には暗記が必要でありそれを割り切って教える必要があるのだなと感じました。

◎Finnish Educational Systems and Organizations

課題の内容は、約20個ほどのmaterialのうちいくつかを読み、それについて自分の意見を取り入れながら最低3ページのessayを書くというものでした。3ページならすぐ終わると思ったのですが、line space = 1だったので、かなり分量が多く感じました。(結局書きたいことを書いていたら6ページを超えてしまいました。)私が取り上げたトピックは、フィンランドの教師についてです。フィンランドと日本の教師や教員養成を比較し、フィンランドのシステムから日本のシステムへ適用できるものを検討したり、日本が改善すべき点を調査するという

ものです。様々な論文や資料を読み印象に残っているのは、働いている時間とその働いている時間を何に使っているかという点について、フィンランドと日本がかなり違ったということです。日本の教師はOECD加盟国34ヶ国の中で1番勤務時間が長いのです。しかし、その中で授業にかけている時間が26位でした。つまり、授業以外の仕事はかなり負担になっているということです。調べてみると課外活動にかけている時間が他の国に比べて異常に長く、ダントツの1位でした。それに対してフィンランドの教師は、勤務時間においては30位、授業にかけている時間と勤務時間の差が2番目に小さいのです。（ちなみにチリは授業以外の仕事を週に3時間しかやらないそうです...笑）それに加え、フィンランドには部活動がなく、授業以外での主な仕事は、生徒の補講や保護者との連携だそうです。これらがフィンランドの教師の質が高いと言われる理由の一つなのかなと思いました。確かに部活動が教育的効果を持っているのは確かだと思いますが、教師の専門は本来教科指導などの授業に関するものにあるはずなので、部活動は外部機関に任せるなどの対処をしてより質の高い授業を提供するべきなのかなと思いました。この課題を通して、他国の教師と比べることで日本の教育を客観的にみることができるとわかったので、今までのステレオタイプにとらわれない考えができるよう課題以外でも進めていきたいと思います。

2. 生活の状況

◎ヨエンスーの様子

先月の終わり頃-10度を経験しましたが、あの時がピークで11月はそれ以上に寒くなることはありませんでした。（とはいってもほぼ毎日氷点下ですが。笑）それよりも問題なのが、日照時間です。日の出が9時頃で日の入りが14時半なので、一日中かなり暗いです。加えてほぼ毎日雪が降っているため、あまりお日様を見ることができません。私はまだ気が落ち込むということにはなっていないのですが、あまりの暗さに時間の感覚が狂ってしまうのと、朝起きるのが困難だということが自分の中での問題です。最近ではこの状況に慣れつつもあるので、自分に負けないように頑張りたいと思います。

◎お菓子作り

以前から書いているサマーハウスのメンバーで”joulutorttu”というフィンランドのお菓子を私のアパートで作りました。このお菓子専用の生地があり、それを切って形を作り、その上にジャムをのせ、オーブンに入れるだけだったので、作るのがとても簡単でした。そして簡単な割に美味しかったので、自分でも作ってみようと思います。

◎クリスマスディナー

これもまたサマーハウスのメンバーなのですが（笑）、フィンランド人の家を借りてフィンランドのクリスマスディナーをいただきました。ジャガイモを使った料理がメインで、甘めの味

付けでした。これはフィンランド人でも好き嫌いが分かれるようで、2人のフィンランド人の友達はあまり好きじゃないそうです。(笑) ちなみに私は嫌いではなかったですが、たくさんは食べることができないな..という感じでした。おそらく今回が4人集まって何かをすることができる最後の機会でしたが、存分に楽しむことができました。(メンバーのうちの一人が今期までの留学で12月に日本に帰ってしまうため、寂しくなりそうです...)



クリスマスディナーです。
おやつにクッキーも作り
ました。





これがjoulutorttuです。美味しかったのでまた作ります。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/01 ～2017/12/31)

1. 勉学の状況

12月はほぼ授業が無く、テストが2つありました。“History of English”と“English Grammar 1”です。“English Grammar”のテストは、文法の専門用語について例を用いながら説明するという問題で、あまり勉強時間が取れませんでした、それなりに解けたように思えます。しかし“History of English”のテストはかなり難しかったです。テスト形式は、大問が3つあり、問1は5問の語句説明問題、問2,3は5つのトピックから一つ選び、それについてエッセイを書くというものです。この授業の内容的に世界史について知っておく必要があったのですが、予備知識がなかったため、その勉強から始めました。かなりテストの出来が悪かったと思うので、自分でもう一度復習しながら勉強を続けていきたいと思います。

2. 生活の状況

◎ヨエンスーについて

こちらの気候は、10月後半からあまり変わっていないように感じます。話によると、今年の12月は暖かったようで、去年は-15°Cを何度も経験していたようです。しかし、1年の中で一番寒いと言われているのが2月ごろなので、気を引き締めていこうと思います。

◎ヘルシンキ旅行

今月はヘルシンキに行きました。なんと、日本のロックバンドであるONE OK ROCKが運良くこの時期にヨーロッパツアーをやっており、そのライブを見に行くことができました。チケットは約3000円とかなり安く、写真の通り、日本では考えられないほどの近さで見ることができました。ここでも文化の違いを感じることができ、ライブ中はどの曲でもお客さんも一緒になって歌っていました。日本だと嫌がる人も多いかもしれませんが、かなり多くの人が歌っており、これが海外のライブでは普通なのかなと思いました。また、ファンの方々が日本語で話しかけてくれたりと思わぬところで異文化交流ができました。

◎サマーハウス

12/31と1/1は、9月にお邪魔したフィンランド人のサマーハウスで過ごしました。今回のメンバーは僕以外全員がフィンランド人でした。少々心細さはありませんでしたが、フィンランド人同士で話す時も英語を使ってくれたので、すぐに溶け込むことができました。ここでも痛感したのが、フィンランド人の英語力の高さです。ほぼポーズなしで話すことができ、発音も少々フィンランド語訛りがある人もいましたが、かなり綺麗でした。オンラインのパーティーゲームを英語でやったのですが（英語版大喜利のようなもの）、みんなの英語力に圧倒されていました。（笑）ネイティブの人たちと話している感覚です。次ゲームをするときは一緒のレベル

で楽しめるように、しっかりと努力して行きたいです。(笑)



↑こんなに近くで見れました！

↓友達は運よく最前列まで行けたそうです(笑)



↑ヘルシンキにラーメン屋さんがありました！



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/01/01 ～2018/01/31)

1. 勉学の状況

1/10からspring semesterが始まりました。前回の履修登録時の失敗を生かして、すぐに履修登録を始めたため自分の興味のある授業は全てとることができました。そのため、今期は35単位取ります。残りの4ヶ月間、悔いのないように勉強していきたいと思います。

今回はすでに始まっている授業のうち2つについて書きたいと思います。

<今期受講予定の授業>

Introduction to Finnish School Life (Spring 2018)

Introduction to Contact Linguistics

Introduction to Linguistic Studies of English

Pronunciation 2

Current Trends in Education

Education, Learning and Cognition SPRING 2018

Theory and Practice of Teaching Foreign Languages to Young Learners

Basics of Finnish Music Education (Spring 2018)

Comparative Perspectives of Preschool Education and Early Elementary Education

Chinese 1

◎Pronunciation 2

この授業は週2回の45分間の授業で、コンピュータ室で行われます。教授はいるのですが、主にやることは、音声を聞きそれを真似しながらひたすら音読をするというものです。英語の教師になるにあたって、自分自身が正しい発音が出来るだけでなく、それを教えることのできるレベルまで持っていかなければならないと考え、この授業を取りました。生徒に正しい発音ができるという自信を持たすことができれば、スピーキングへのモチベーションにも繋がると思うので、積極的に発音についても学んでいきたいと思います。

現在の授業は、文章単位でのtoneについて学んでいます。今まで発音については千葉大学の授業で習っていたのですが、文章レベルのtoneについては初めてなので学ぶことがとても多いです。例えば”Good morning”一つをとっても、toneによってこの後にまた文章が来るか、それともこの挨拶で終わりなのかがわかります。千葉大学のイギリス人の教授の発音を思い出してみると、確かに納得いきます。会話する上でイントネーションも意味に介入することを理解したので、これからはtoneを意識して使い、最終的には意識しなくても自然にできるように努力していきたいです。

◎Chinese 1

今期はもともと興味があった中国語の授業を取りました。この授業は週2回の3時間の授業で、隣の大学のカレリア大学の学生も受講しています。なぜ彼らがこの授業を取っているか聞いてみると、彼らの多くは国際ビジネス学部で将来必要になるからだそうです。実際、友達になったフィンランド人とモロッコ人は7-8ヶ国語勉強しています！2人とも、頑張って勉強して

いるというよりは楽しんでいるように見え、それが多くの言語を学ぶコツなのかなとも感じました。(モロッコ人は僕をみると嬉しそうに日本語を話してきます。笑)

授業については、アクティビティ多めの講義式でとても楽しく取り組んでいます。基本的に音を先に覚えてから文字の練習なのでかなり音読の練習が多いです。ここで気づいたのが、国によって苦手な発音が全く違うということです。音読練習の時に発音が難しく顔をしめるタイミングがみんな違いました。アジアの国から来ている人たち(タイなど)はヨーロッパの国出身の人たちに比べると、よく発音できていたように思います。外国人と外国語を学ぶメリットとして、お互いに自分の得意なところを教え合えるということがあると感じました。ちなみに、漢字の練習については、流石に初級からやるので漢数字を20回ずつ書くなどの宿題もこなしています...(笑)

2. 生活の状況

◎ヨエンスーについて

10月後半から12月まであまり気温が変わっていないように思えたのですが、とうとう今月-20度以下を体験しました。ある日は風があったので体感温度が-26度でした... 話に聞いていた通り、寒いというよりは痛いという感覚で、歩いているだけで鼻の中やまつ毛が凍ったりします。自転車に乗っていた外国人は、顔中が凍って真っ白になっていました。しかし悪いことだけでなく、この寒さを経験していたおかげでマイナス一桁台がそこまで寒いと感じなくなりました(笑)とは言っても、教授が言うにはこれが2月の普通の気温だそうなので、覚悟しておきます。

◎カルチャーショック...?

ここ最近で強く感じたことについて書きたいと思います。一般的に日本人の若者は海外の若者と比べて政治への興味が薄いと言われており、よく聞く話ですが、実際に外国人とその話になってみると違いを感じます。先日、フィンランドの大統領選挙があったのですが、その日一緒に遊んでいたフィンランド人が「今日大統領選挙友達と一緒にテレビで見る約束してるから帰るね!」と言って先に帰ってしまいました。日本だとなかなかないことだと思います。また、あるフィンランド人と友達になったその日に「安倍晋三についてどう思う?」と聞かれ、とっさに自分の意見を言うことができませんでした。そのほかにも「北朝鮮についてどう思っているの?」なども聞かれますが、日本の若者同士の会話だと滅多に出てこないトピックだなと感じました。これらの経験を通して政治や国際問題に対する興味が出たので、様々なことを知り、それについて自分の意見を持ち、この先友達と話し合うことができたらいいなと思います。

◎フットサルについて

今月からフットサルの公式戦が始まりました。片道2時間かかるところに遠征をしたりと、こちらに来る前までは想像もしていなかったことをしています。戦績は4戦3勝1分とかなり良いスタートを切れ、自分自身も4ゴール1アシストと今の所は順調にきています。チームメイトも

過ごす時間が長くなるにつれて心を開いてくれ、英語があまり話せない人もどうにかコミュニケーションしようとしてくれるようになりました。また、基本的にみんなフィンランド語で話すので、少しフィンランド語が理解できるようになってきました。流石に詳しい戦術については英語でないと全くわかりませんが（笑）この調子でフィンランド語も学びつつ、しっかりと勝ち進んでいきたいと思います。

◎英語力について

留学が半分を過ぎたので、自分の英語力について書きたいと思います。こちらに来て5ヶ月ほどが経ちますが、やはり毎日英語に触れているのでそれなりに向上して来ていると思います。特に感じるのがリスニング力です。自分はずっとリスニングが苦手で、来た当初も相手の言っていることがわからず、話すにも話せないと言う状況でした。これではダメだと思い、家にいるときも映画を見て英語を聞く機会を増やすなどしたところ、ある程度聞き取れるようになったので外国人と一緒にいるときに緊張することが全くなくなりました。今ではたまに英語の夢を見ることもあります（笑）スピーキングについても、自分が知らない単語は簡単な言葉で説明する癖や、何か述べた後に”because～”をすぐ言う癖もつきました。しかしまだ日本語を考えてから話してしまうときがあるので、より話す機会を増やしていこうと思います。



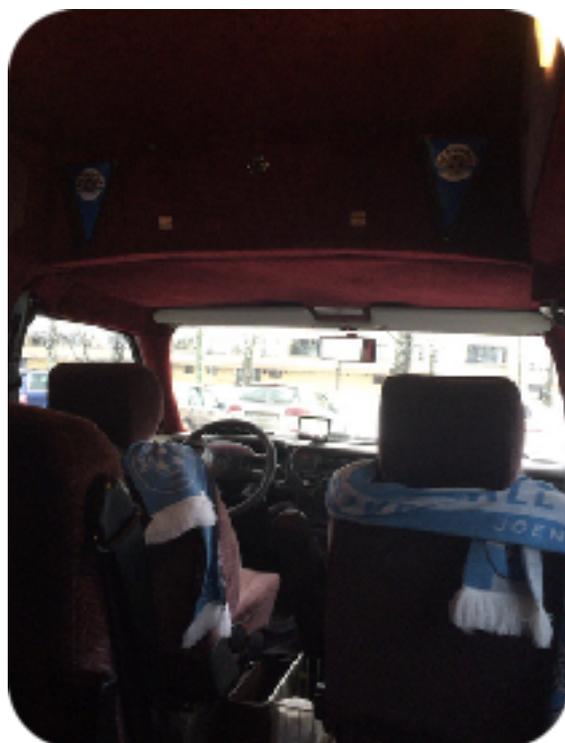
寒いので、一つ一つがきちんと結晶の形になっています！





今月は晴れの日が多かったです！

遠征の時は、チーム専用のvanで移動します！



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/02/01 ～2018/02/28)

1. 勉学の状況

留学を残り2ヶ月と少しになりました。今月はあまりタフな授業はなかったように思います。今回は今月から始まった”Theory and Practice of Teaching Foreign Languages to Young Learners”について書きます。

◎Theory and Practice of Teaching Foreign Languages to Young Learners

この授業は名前の通り、young learnersに対してどのようにして外国語を教えるかを考えていくもので、自分たちで授業計画を立てたり付属の小学校に授業見学に行ったりします。前回の授業で今までやったことのないアクティビティをやったので、それについて書きたいと思います。そのアクティビティは”This is how I look as a learner of English”と”My English lesson in the year 2020”というタイトルで自分自身についての絵を書きなさいというものでした。フィンランドのユヴァスキュラ大学で行われた調査で、これを行うことによって、言語学習において自分が何を重要視しているか、どのような環境でどのようなものを使って学習してきたのかをビジュアル化できます。私はナミビア人・日本人とペアを組み、お互いの絵について説明し合いました。”This is how I look as a learner of English”については、やはり日本人組は机に座って本を読んだり英語を書いたりしていて、ほぼ同じ絵でした。それに対してナミビア人は、机や椅子、その他学習教材ですら書いておらず、ただ楽しげな人が書いてあるだけでした。彼女に話を聞くと、英語の勉強は楽しくやっていたからこの絵を描いたんだよと言われ、日本人でこのような絵を描く人はなかなかいないだろうなと感じました。調査の結果によると、69%はその人ひとりだけを書き、クラスの中での学習環境を描く人は少なかったそうです。また、65%はlearning materialとして本を選んでおり、これらについては日本も似た結果になるのかなと感じました。”My English lesson in the year 2020”は、自分が教師になった時にどのような授業をしているかを想像して絵を描くというものでした。これについては、教師が生徒たちの前に立っているという一般的なクラスルームが書かれることが多いそうなのですが、フィンランド特有とも言える絵を描いた生徒もいるということで紹介されていました。ナショナルコアカリキュラム（日本でいう学習指導要領）の中に”phenomenon-based learning”というものが近年取り入れられたのですが、テーマ別学習のことで、教科の垣根を超えてあるテーマについて自分たちで学んで行くというものです。それを反映させた絵があり、例えばキッチンで英語の授業をするというものでした。より普段の生活に則した授業を提供することで、教室内とは違うコンテキストの中での英語の使い方がわかるし、何より楽しみながら英語を学ぶことができるという利点があると思います。日本はクラス人数が多いのでなかなかこれを適用するのは難しいとは思いますが、参考にして日本にあった形で取り入れる方法を考えてみたいと思いました。

2. 生活の状況

◎ヨエンスーについて

やはり二月は今までで一番寒く、何度も-20度以下を経験しました。しかし晴れの日も多くなり、またかなり日照時間が伸びたので自転車通学を再開しています。一度ニット帽をしないで自転車で帰ったところ、耳が軽い凍傷になってしまいました。かなり怖い経験をしたのでこれからは気をつけます。これからは雪が溶け始めて逆に危ない時期が来ると思うので、気をつけながら生活したいと思います。

◎初めての体調不良

小見出しの通り、今月初めて体調を崩しました。電車が1時間遅れたため寒い中外で待っていたせいだと思います。3日間39.5度出ていたので、おそらくインフルエンザだったのではないかと思います。病院にも行こうと思ったのですが、調べたところによると、病院に行ってもインフルエンザ用の薬はもらえず、咳止めくらいしかないということでしたので、自力で治しました。この体調不良のせいで一週間休んだため、プレゼンテーションを一つ休んでしまい、未だフィンランドに来てきちんとしたプレゼンテーションをやれていないので、次の授業は絶対に参加しようと思います。

◎フットサル

相も変わらず毎週フットサルをしています。未だ負けなしで、グループ1位をキープし続けています。今月はキャプテンをやらせてもらうという貴重な経験をしています。とはいっても、フィンランド語が話せないので結局キャプテンらしいことはできていないのですが。(笑) チームメイトともっとコミュニケーションが取れるように、これからもよりフィンランド語の勉強をしていきたいと思っています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/03/01 ～2018/03/31)

1. 勉学の状況

留学を残り1ヶ月と少しになりました。今月は”Chinese 1”と”Introduction to Linguistic Studies of English”のテストがありました。”Chinese 1”についてはすでにテストの点数を教えてもらったのですが、93/100点でした。日本語の漢字を書いてしまうというケアレスミスはありましたが、勉強した成果が出てよかったです。”Introduction to Linguistic Studies of English”のテストについてですが、日本じゃなかなかないことがあったので紹介したいと思います。このテストは始め、9問の語句説明問題と1問のエッセイ問題だったのですが、生徒が問題形式について教授に意見していました。生徒の位置が遠かったのではっきりとは聞き取れなかったのですが、問題形式が不公平などと熱弁しており、結局そのために問題形式が変更されました。このように自分が思ったことをその場で直接言えることについて、やはり日本とは違うなと痛感しました。このテストの結果は4/12に出るので、また来月に報告したいと思います。

今回は、先月体調不良であまり参加できなかった”Introduction to Finnish School Life”について書きたいと思います。

◎Introduction to Finnish School Life

この授業はフィンランドの学校全般についてや、クラス内でのアクティビティ、教師の仕事についてなど、フィンランドの教育事情を学ぶのにとっても最適な講義になってます。これらについての講義、付属校の授業見学、その他アクティビティを合わせて81時間勉強することで単位がもらえます。ここでは、その付属校を見学した時の話をしたいと思います。

今回見学したのは、小学校1年生の英語の授業です。授業時間は45分で、人数はたったの5人でした。この日2-3人欠席していたそうですが、それでもかなり少ないです。この授業を見て驚いたことが2つあったので紹介します。1つ目は、教室外でのアクティビティがあったことです。

最初の15分間、英語の頭に切り替えるためのウォーミングアップをするのですが、その全てが教室の外で行われていました。内容は数字についてだったのですが、教室の外でやっていることもあり、アクティビティのほとんどが体を動かすものでした。一つ例をあげると、大縄跳びをしながら英語で数字を数えていくというものです。生徒たちはとてもアクティビティを楽しんでおり、自然に英語が出ていました。これが”授業の中だけの英語”にとらわれない一つの要因なのかなと思いました。2つ目は、この生徒数に対して先生が二人ついていたことです。一人は授業をメインに進めており、もう一人は補助教員でした。このクラスには多動症の生徒が一人いて、補助教員はその生徒を主にサポートしており、メインの先生がその生徒につくときは他の生徒の手伝いをしていました。この徹底した少人数教育と教師の手厚いサポートがフィンランドの英語教育の成功を導いているのだと強く感じました。

2. 生活の状況

◎ヨエンスーについて

今月からどんどん気温が上がってきており、とうとう冬を乗り越えたという感じです。それでも0度くらいで、まだ道には大量の雪がありますが（笑）日もかなり伸びており、現在は6時に日が昇り、20時付近まで明るいです。残り1ヶ月と少ししかないので、存分にヨエンスーを楽しみたいと思います。

◎アイススケート

こちらにきてから何回かアイススケートをしています。夏サッカー場だったところが、冬にはスケートリンクになっており、無料で使うことができます。スケートシューズも学校側から無料で借りることができるので、気軽にすることができます。やはり小学校でやっているからか、フィンランド人の友達はみんな上手でした。スケートリンクが溶けきる前に友達に教わって、ちゃんと滑ることができるようになりたいです。



これがスケートリンクです。自転車で通っている人もいました（笑）

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/04/01 ～2018/04/31)

1. 勉学の状況

5/11に帰国予定なので留学も残すところ一週間と少しになりました。今考えるとこの8ヶ月間は本当にあつという間だったなあと感じます。

今回の報告書ではIntroduction to Finnish School Lifeの授業で面白いと感じた2つのことについて述べたいと思います。

◎Introduction to Finnish School Life

この授業もとうとう終盤に入り、5月にある”Morning Assembly”という小学生に自国の文化を紹介するという発表会とプレゼンテーションのみとなりました。ここでは4月の授業で興味深いと思ったことを書きます。

1つ目は言語推測ゲームです。5-6人で自分と違う国の人とペアを作り、それぞれの言語で一文を考えるのですが、それを残りの人でどんな意味だったのかを推測するというゲームです。私はドイツ人・イタリア人・ベルギー人とペアを組んだのですが、驚くことに一つ一つの単語からお互いの言語の意味を予測することができていました。もちろん私を除いてですが(笑)もう一人の同じ授業を取っている日本人に話を聞いたのですが、全く同じ状況でした。いかに日本語がヨーロッパ系の言語から離れているかを改めて実感しました。オランダ語については英語とかなり似ていたので少しは予測することができました。この経験から、母語が第二言語に及ぼす影響についてより興味が湧いたので、進んで調べようと思います。

2つ目の興味深かったことは、実際に小学校で行われたという自己評価の方法についてです。その方法とは、生徒にある絵を配りその絵の中で自分がその分野においてどの位置にいるかをマグネットで示し、どうしてその位置にマグネットを置いたのかを他の人に説明するというものです。その絵には、山や大きな木、滝など様々な風景が書いてあり、その中に棒人間がいます。崖を登っている棒人間や滝から落ちている棒人間、ロケットに乗っている棒人間などかなりバリエーションが多かったです。そのため生徒は自分がどのような状況にいるのかを細かく分析できるのではないかと感じました。また、それを他人に説明することで論理的な思考や発信する力がつくと思うのでかなり良いアイデアだと思います。メタ認知することは学習する上でとても重要なことだと思うので、千葉大学で実習する際にはこのようなアイデアをこちらにおった形で適応しながら使えたらより良い授業ができるのではないかと思います。

2. 生活の状況

◎ヨエンスーについて

かなり暖かくなってきており、10度付近になりました。毎月同じことを言っているような気がします。さらに日が伸びてきています。最近では朝3:00から薄っすら明るくなり始め、夜11:00くらいまで真っ暗にはなりません。11月とはまた違った意味で時間感覚が狂います。でも

夜は全く危なくないのでいいのかなとも思います（笑）

◎ ロシア

今月はロシアへ旅行しに行きました。フィンランドからフェリーで片道13時間くらいでつきます。今回の旅行で思ったのは、何と言っても物価の安さです。バス代が日本円で約40円くらいでした。現地ではロシア人の友達に案内してもらい、教会や美術館など行きました。エルミタール美術館に言ったのですが、なんと入館料が学生はただでした。そこでは本物のミイラなど見れたり、もともと王宮だった影響で豪華な装飾が見ることができたりと、かなり満足しました。もう一つとても印象に残っていることがあるのですが、地下鉄までの長いエスカレーターです。下に着くまで2.3分はかかったように思います。調べたところ、地下100mくらいあるそうです（笑）なんだかちか深くに吸い込まれていくような気分になります。総じてとても楽しい旅行になったので、また他の国に旅行に行きたいなと思います。

ながーいエスカレーター



エルミターージュ美術館

